



- I. 研修科の長 西 木 戸 修
- II. 臨床研修責任者 西 木 戸 修
- III. 臨床研修指導医数（厚生労働省認定） 1名

IV. 認定医数・専門医数・指導医数

日本緩和医療学会認定医	2名
日本緩和医療学会専門医	1名
日本麻酔科学会専門医	2名
日本がん治療認定医機構がん治療認定医	1名

V. 主な診療実績

年間緩和ケア病棟入院件数（2021年）	174件
年間緩和医療チーム依頼件数（2021年度）	171件

VI. 診療科の特徴

当科は、緩和医療を必要とするがん患者さんの苦痛症状を全人的苦痛としてとらえ、身体的苦痛に対して医療用麻薬や鎮痛補助薬の使い方、不安やうつ症状に対する対応、症状が安定したのちには療養の場を調整し退院へと導くチーム医療や患者、スタッフとのコミュニケーションを学ぶことが可能です。

緩和ケア病棟では、毎日カンファレンスを行い、日々の患者さんの状態を把握し、症状のアセスメントを行い、適切なマネージメントの方法を習得していきます。リハビリテーション、口腔ケアチーム、リエゾンチーム、WOCと協働しながら主治医として患者さんのQOLを向上するための診療を行います。緩和ケアは文字通り、「ケア」も重要です。患者さんの思いを傾聴しスピリチュアルペインに対しても、修練できます。

緩和医療チームは身体症状担当医、精神症状担当医、認定看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床心理士、MSW等多職種で構成され、一般病床で主治医や病棟スタッフをサポートし、苦痛症状を有する患者さんの症状緩和をサポートしています。

VII. 研修目標（学修目標）

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。



もくじB. 資質・能力（学修到達目標）

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。



もくじ

- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。

10. 当科特有の目標

緩和医療領域の代表的な症状の病態を把握し、実際に診療に携わることにより、診療において必須の知識と技術を習得する。

- ① 苦痛症状についての評価から治療の一連の流れを経験する。
- ② 苦痛症状の診療に必要な基本的方法を学習する。
- ③ 病歴や身体所見をもとに診断へのアプローチのための知識や技術を習得する。
- ④ 胸部X線・CTの読影方法を身につける。
- ⑤ 血液検査や画像検査
- ⑥ などを通じ病態についての知識を学ぶ。
- ⑦ 患者や家族に対する病状説明に同席し、患者や家族の立場を理解できるようにする。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。

2. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

3. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

VIII. 研修方略

1. 当科で経験できる症候、疾病、病態、その他

各癌腫により引き起こされる様々な苦痛症状



もくじ. 基本的診療業務

① 外来診療

緩和ケア病棟入院判定外来に同席し、緩和ケア病棟入院適応について学び、緩和医療外来では外来での全人的苦痛緩和対処法を学びます。

② 入院診療

緩和ケア病棟での緩和医療科担当入院患者の担当医の一員として、上級医とともに毎日変化する全人的苦痛（身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛）を把握し、その原因を考察し、対処していきます。一般病棟では各診療科から依頼のあった患者に対し、緩和医療チーム（緩和医療科医師、メンタルセンター医師、臨床心理士、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、管理栄養士ら）とともに、主治医と患者の関係を重視しながら、全人的苦痛を緩和していきます。

③ 週間予定

時	月	火	水	木	金
8	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
9	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
10	病棟/緩和チーム	病棟/緩和チーム	病棟/緩和チーム	緩和チームカンファレンス	病棟/緩和チーム
11					
12					
13	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
14	外来	外来	外来	外来	外来
15		病棟		病棟	
16	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
17					

- ・ 毎日の朝カンファレンスに参加、患者状況について報告し、治療方針の確認を行う。その後に病棟回診を行う。
- ・ 月～水、金曜日 10：00 からの病棟・緩和医療チーム回診に参加する。
- ・ 木曜日 10：00 から緩和医療チームカンファレンス・回診に参加する。
- ・ 月水金曜日 13：30、火木曜日 13：45 からの緩和ケア病棟入院判定外来に参加する。
- ・ 毎日夕方より病棟回診に参加する。

3. その他

- ① 入院診療（病歴聴取、診察、検査・治療計画、診療録の記載）を通じて、苦痛症状の適切なアセスメントに必要な知識と治療法を経験する。
- ② 入院病歴要約の指導医からの添削を通じて、適切な用語の使い方や問題点の抽出を学ぶ。
- ③ 患者や家族への病状説明やインフォームドコンセントに同席する。
- ④ 患者を全人的に捉えて、医学的のみならず、心理的、社会的問題を配慮し、患者、家族に適切な指導を行う。

4. 当直

Duty はありません。

Ⅸ. 研修評価

研修目標の達成度については、診療科ローテーション終了時に研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて、自己評価および指導医・メディカルスタッフによる評価を行う。（EPOC2 使用）

また、研修医評価票は研修管理委員会に提出され、半年に 1 回、形成的評価（フィードバック）を行う。